

自分にできること

一年 福永 佳佑

今年の夏休み、父が単身赴任し、家族が四

ヶ所に分かれて生活するようになったこと、で

たくさんの事を考える機会をもらいました。

先日、二番目の兄が帰省した時、

「今年は、福祉について作文を書こうと思っ

てるんだけど福祉って難しいよね。」

と相談すると、

「お前の普通の生活だよ。」

と言われ、「えっ?!」とよく意味が分かりません

でした。普段の生活ってどういう事なのか考

えていると、

「福祉」という言葉を調べてもらん。」

とアドバイスをくれ、ぼくはインターネット

で福祉とはと検索してみました。とてもたく

さん意味があり、兄が言った「ぼくの普段の

生活」に近い内容を見ていくと、「福祉」と

は、特別な人のためのものではなく、私たち

みんなの幸せという広い意味を持つとありま

した。つまり、自分の事だけでなく、周りの
 人も大切に思いそれぞれの考え方や生き方を
 尊重し「ともに生きる」事の様です。ぼくの
 中ではこの夏開催されたパラリンピック関連
 しか想像できなかったのので福祉について書こ
 うと思っただことに、少しはずかしくなりまし
 た。「特別な人のためではない」という言葉
 が頭に残り、兄の言ってくれた、ぼくの普段
 の生活の意味がわかった気がしました。ぼく
 の生活は、ぼく自身の考えや生き方を尊重し
 てくれる家族や友人、そして学校では先生方
 にとくさんの援助をしていただく中、守られ
 ているのだと思います。先日、母が左手の小
 指を車のドアにはさんでかなりひどい怪我を
 しました。利き手ではなかつたものの傷も深
 く指先は、腫れて曲がらないほどで、当然、
 家事はしぼろくできませんでした。ぼくの生
 活は一変しました。洗たく、洗い物、片付け
 などできる限りの手伝いをしました。母と二
 人の生活になつて、ぼくしかサポーターはい

ないのので、それから、当然です。ぼくの家では家
 族ラインがあり、六人が四ヶ所から毎日連絡
 をくれます。その中で母の怪我を心配する兄
 や父が手伝いをするべく、けいすけありか
 とうね、お母さんを頼むという感謝の言葉
 があり、いつも一緒にある事、いつも皆に見守
 られている事と深い家族の愛情や絆を感じま
 した。ぼくも父や兄たちが、毎日元気だけが
 なく、そして新型コロナウイルス感染するこ
 とが怖いよう祈っています。そしてこの気持
 ちを周りの友人やぼくに関わる全ての人へ向
 ける事ができるように人への思いやり、他の
 幸せも願って行動すること、が身の回りに一番
 近い「福祉」なのだと考えます。自分自身の
 日々、恵まれた環境に心から感謝し、一番近
 い「福祉」から、ぼくも参加して行きます。一
 人ひとりの小さな福祉活動が未来の大きな福
 祉、全ての人の幸せへとつながる事を願いな
 がら、このコロナ禍を皆で乗り越えられたら
 いなあと思いました。